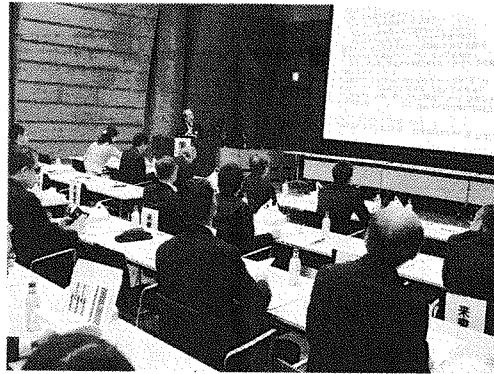


第12回OCHISセミナー

個人任せにしない受診指導
初の試みランチョンセミナー



ランチョンセミナーで
講演する武田理事長

運輸業界の健康起因事故防止をサポートするNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS、理事長・武田裕大阪大学名誉教授)は10月27日、大阪市の大阪大学中之島センターで第12回OCHISセミナーを開催。トラック、バス、タクシー関係者のほか健康保険や医療に携わる人ら約80人が参加した。

今回のテーマは「運輸業界における次世代健康管理の必要性と対策(かたち)」とし、定期健康診断と睡眠時無呼吸症候群(SAS)にフォーカスした情報の一元化について情報提供した。今回は初の試みとして、昼食に参加者全員に「ドライバーのための意識改革弁当」を提供し、ランチョンセミナーとして食事の時間が

が不規則で栄養バランスも乱れがちなドライバーのための弁当を提案しながら、武田理事長が「進化する医療情報のネットワーク化と活用」をテーマに講演した。セミナーは国土交通省の吉永隆博安全政策課長、全日本トラック協会の大西政弘交通・環境部付部長、国交省の事業用自動車健康起因事故対策協議会の酒井一博座長がそれぞれ事業用自動車の事故防止策を説明した。

またOCHISからの情報提供として作本貞子副理事長が全ト協と共同で推進する「運輸ヘルスケアナビシステムの実証実験の中間報告と今後の展望」を報告。ドライバーらの健康診断の事後フォローによる健康起因事故の防止のため、診断データを分析、安全・健康対策の活用方法を提案するもので、肥満率が高い中高年のほか、若い世代でも有所見者が多いことがわかったという。作本副理事長は「健診データのコントロールが大事」として、個人任せにしない受診指導の必要性を訴えた。

セミナーではパネルディスカッションでも、参加者の抱える課題などについて回答した。